

金剛寶戒寺便

<https://www.houkaiji.jp>

令和五年十月一日発行 第一一五号

檀信徒の皆様こんにちは。暑さ寒さも彼岸までと言いますが、毎年時期を間違えずに咲いてくれるのが彼岸花です。その彼岸花が十月になっても美しく咲き誇っています。昼間と朝晩の気温差が大きく、体調管理も難しいです。夏バテは秋口に出やすいと言いますので、皆さま体調管理にはお気を付けてください。先月のお知らせで、庫裡並びに法要会館の上棟式をお知らせいたしました。日程が変更になりました。九月の中旬以降にお配りした金剛宝戒寺便りは訂正済みですが、前半のお便りは間違えていきますので、再度お知らせをさせていただきます。お気を付けてください。

庫裡並びに法要会館の上棟式

令和五年十月十四日（土曜日）十三時より

金剛宝戒寺 境内において

お餅まきは十三時三十分頃になると思いますが、縁起物ですので、ご家族お子様お誘いの上ご参加ください。

さて、九月は月例の講習会の代わりのご詠歌の巡廻講習を行いました。講師を務めて下さった叶宜朗先生は私よりも一歳年下で、その様には見えませんが、今回の巡廻が初めての経験だったそうです。そして、私もご詠歌の巡廻講習に参加をさせて頂いたのが

初めてでしたので、比較の仕様がなかったので、とても素晴らしい講習会に感じました。一言で表すと、ご詠歌に対する認識が変わりました。

講習の中で、ご詠歌とは「念仏であり、成仏道である」と叶先生仰ってました。「念仏」とはひたすらに仏様のお名前や真言をお唱えする事。そして「成仏道」とは覚りをひらく事です。もう少し付け加えると覚りをひらくための方法と言い換えても良いのではないかと思います。

浅はかな私はこれまで、ご詠歌とは単なる仏教を広める為の歌で、世の中の無常や諸仏を讃えている程度にしか理解出来ていませんでした。しかし、今回の講習会を受けて歌詞の深い内容や、歌を作り、残されてきた歴代のお坊様方のお話を聞き、ご詠歌も「禅定」ではないかと思うようになりました。

「禅」というと皆さんは静かに端座し「無の境地に達する」といったイメージがあるかもしれませんが。しかし私も長年、座ってきて、なかなか「無の境地」などになる事はありません。数少ない経験ですが、私が「これかな？」と思った時は、深い水中に座っているような、しかもそれは水底ではなく水中に腰を落としている感じでした。また水中にいる時と同じように音が聞こえないわけでもない、どこか遠くから聞こえてくるような感じでした。さらに海中では息を貯めて止めています。

ですが、それに近い状態でいながら苦しめない息を止めていながら呼吸をしている。文字にするような感じになります。もちろん座っているときには、これらの認識もないので、それが正しいのかも分かりませんが、文章に記すのも恥ずかしいのが本音です。

おそらく「禅」とは無を求めたものではないと思います。一言で言えば「一点に集中することでしょう。けれども一点に集中し続けるというのなかなか簡単なことではありません。私が最近思うのは、むしろ思考を積極的に一つへ傾けていく方が散漫にならない感じがしています。間違えているかもしれないが、点というよりも（奥行きのある）線に近い感じがしています。そして一番不思議なのは朝のお勤めの前よりも、終わった後の方が疲れが取れている感覚になる事です。

ご詠歌も仏の功德を思い、感じ、歌詞を深く想い味わいながら、細く、長い呼吸を集中して繰り返すことにより「成仏道」となるのではないかと、叶先生の素敵な声と、法話を伺っていて思いました。

講習会のご案内

十一月八日（水曜日）十四時より

金剛宝戒寺本堂において「法話の会」

今月は止めようかと思いましたが、懲りずに一句献上させて頂きます。

彼岸花 先祖が集う 華座布団 合掌